

【特別企画③】

大学・学校法人・教育機関等における 『平時の広報』・『危機管理広報』の基本と実践

～社会・メディアとの接点で大切なこと～

《開催要領》

●日 時● 2018年12月26日(水) 13:00～17:00

●会 場● 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

講 師 日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村智憲 氏

講師紹介

早大卒。米国MBA修了。国連勤務にて国連内部監査業務専門官、国連戦略立案専門官リーダー、人権啓発の広報業務などを担当。企業役員レベルで監査統括や、上場IT企業JFEシステムズのアドバイザー、経営行動科学学会理事、JA長野中央会顧問などを歴任。学校法人の運営・リスク管理の指導、NHK「クローズアップ現代」TV出演やTV番組監修・プロデューサー・ディレクター指導も行う。著書33冊。中央官庁関連の有識者活動など産官学を通じて幅広く活動中。

《開催にあたって》

学校経営の窮状や各教育機関における不祥事と事後対応の問題から、社会が教育機関に厳しい視線と対応を迫る中、生徒数拡大のための攻めの広報対応だけでなく守りの広報対応も必須です。

いじめ・ハラスメント・非常勤講師などにおける労働問題をはじめ、敷地内や学生などが起こす不祥事やトップ層の責任が問われる事態など、様々な局面で人権・炎上を配慮しつつ適切・迅速な広報対応が必須です。

学位・組織内政治などでなかなか機能しにくい広報対応において、何を踏まえてどう対応しておくべきかについて、大学院で教鞭をとりメディアに出る側・作る側の両方を担当してきた講師がポイント解説致します。

■受講料: 1名(税込・資料代)

正会員	27,000円(本体価格 25,000円)
一般	29,160円(本体価格 27,000円)

■参加要領

申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。

当会ホームページからお申し込み頂けます。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会ホームページにてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申込後のキャンセルはお受けしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理の方のご出席をお願いいたします。

※最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

■お申し込み・お問い合わせ先

一般社団法人企業研究会 公開セミナー事業グループ

担当/民秋・川守田 E-mail: tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

《申込方法》当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用方法(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

181923-0404	大学における平時の広報・危機管理広報の基本と実践		
ふりがな 会社名			
住 所	〒		
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属 役 職		
E-mail			
ふりがな ご氏名	所 属 役 職		
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

12/26
(水)

13:00

1. 広報・プレスリリースの基本・本質・工夫

- ・「誰」の「何のため」の広報活動か？
- ・歴史的なプレスリリースのベストプラクティスに学ぶ
- ・失敗事例と成功事例から学ぶ「転ばぬ先の杖」と知恵
- ・わかりやすく迅速な情報発信の必要性
- ・ステークホルダー（利害関係者）の理解と整理
- ・グローバル社会への対応と広報上の視点
- ・マスコミを知る：テレビに出る側・作る側の両方で活動する講師の視点より（テレビ・新聞・ラジオ・ネットメディア等の特性な内情・取材に来る側の心理など）
- ・メディアとの接し方でよくある誤解・落とし穴と対策
- ・集中型広報か裁量分散型広報かの視点
- ・メディアトレーニングの実際例
- ・「広報マネジメントシステム」としての体系立てた広報対応
- ・いざという時の危機管理広報「7文字の原則」 など

2. 炎上・社会的糾弾に陥らないために押さえておくべき法的課題・重要課題

- ・権威・学位・組織内政治の観点と広報担当者の身を守る上でも対応しておくべきこと
- ・SNSを活用した広報での「ソーシャルメディアコンプライアンス」
- ・平時での広報対応と危機・不祥事などでの危機管理広報の違い
- ・「3つの原則」で読み解く初動から早期の信頼回復・通常化への流れと対応策
- ・メディア対応の裏側（会見設定・会場入退場・記者マイクの対応・応答の姿勢や表情やしぐさなどの非言語コミュニケーション等）
- ・人権やダイバーシティ&インクルージョンの観点からプレスリリースで炎上しないためのポイント
- ・シーン別 マスコミ対応とその予想される顛末・掲載記事・社会的反応
シーン1: ついやってしまいがちな記者会見・謝罪会見の一コマとその成り行き
シーン2: もしも「意地悪記者」が公道でマイクを向けて取材してきたら・・・？
シーン3: プレスリリース・ポジションペーパーの不用意な一言とその成り行き

3. 攻めも守りも広報対応自体が加害行為にならないためのポイント

- ・人権・多様性の尊重・差別的文言・不快語などでの炎上と広報対応での留意点・対策
- ・一般社会で当然視されるダイバーシティ&インクルージョンの実際と学内の「常識」「慣行」とメディアや社会の「常識」のズレについて
- ・自組織・広報部門で「当たり前」と思っていることのワナ
- ・「論理的思考の暴走」： 論理的に考えて広報対応・プレスリリース作成をしたらいついかなる時も必ず「正しい」のか？
- ・不祥事や人命に関わる際の危機管理広報のポイント
- ・メディアに提供する情報の管理・機密保持・オフレコ対応・公平なメディアへの情報開示
- ・やってはいけないプレスリリース・広報対応
- ・進んでやるべきプレスリリース・広報対応 など

※最新動向や社会状況などに応じて、上記項目例は適宜改訂・修正させて頂く可能性がございます。
※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

17:00